

# 情報教育に関する実態調査について

## 1 調査の概要

情報教育委員会では、愛媛県下の小・中学校の情報教育推進状況を把握するために情報教育に関する調査を実施している。この調査は県下全小・中学校を対象とし、平成7年度より本年度まで継続して21年目を迎えている。集計結果や考察は、本紀要に掲載するだけでなく、当該支部と県の集計結果を各支部に送付し、ICT活用の啓発や機器の導入等に活用することができるようにしている。

## 2 調査内容

ネットワーク・ソフトウェア・周辺機器、コンピュータ整備、教職員、愛教研 Web ページの利用、そして昨年度新設したその他の5項目について調査を行った。調査項目については、基本は昨年度に引き続いた内容としている。また、昨年度新設した「その他」の項目は、年度ごとに内容を吟味し、その都度知りたい情報を収集する場としており、これは実態調査の内容に柔軟性をもたせることに役立たせている。

今年度の「その他」の項目では昨年度同様に WindowsXP に関すること、タブレット端末に関すること、USB メモリーの接続に関することなどを盛り込んでおり、来年度には、Windows のバージョンやタブレット端末に関する項目等、大幅な見直しが必要になってくると思われる。

## 3 結果及び考察

### (1) ネットワーク・ソフトウェア・周辺機器

昨年度もこの場に記したが、インターネットを使用するに当たり、少数ではあるが、本来100%でなければならない部分が、未整備の地区がある。(インターネットガイドライン、フィルタリングソフト、ウイルス対策ソフトなど。)特に、児童・生徒用の規約やガイドラインの未整備の学校が3割以上あることについては該当各支部においても早急な対策が必要だと思われる。これらについては子どもたちの情報モラルの向上のためにも重要な項目であり、学校が主体的になって整備を進めていく必要がある。当該自治体や学校に意識付けや情報発信をして、100%の整備を目指していかなくてはならないと考える。

### (2) コンピュータ等の整備

普通教室のコンピュータ整備率は約37%であり、昨年度からわずかに上がっているとは言え、まだ4割にも満たない。ただ、整備済みの場合、インターネットにつながる率は100%であり、コンピュータの整備と合わせて、インターネット環境も整えられていることが伺える。普通教室のコンピュータ整備率を高めることは、授業におけるICT活用の推進を図っていくうえで重要なことだと考える。さらに、タブレット端末が導入されたときに有効に活用していく地盤を作ることもつながっていく。自治体の差が大きいと思われるので、今後はさらに積極的な情報発信・啓発をしていく必要がある。また、タブレット端末の普及を視野に入れると、無線LAN接続や転送機能のある機器の導入など、ハードウェア面を整備することについても今まで以上に考えていかなければならない。

### (3) 教職員に関する内容

デジタル教科書への関心が高まっている。これは、電子黒板や大型テレビの整備や活用が進むにつれ、授業のねらいをより効果的に達成するためには、デジタル教科書の活用が有効だと捉えていることを意味する。今年度は、ICT機器を活用した授業の実施において「いつも実施している」「よく実施している」の合計が「まれに実施している」「実施していない」の合計より上回っており、昨年度よりもICT機器の活用が推進されていることが伺える。とはいえ、上記「実施している」といえる割合が半分にも満たないことから考えると、ICT機器を「活用する教員」と「そうでない教員」との二極化の顕著さは軽視できないところである。今後も、愛媛県の全教員が活用できるように普及、啓発に力を入れていくことは不可欠であると考えられる。

さらに研修希望が一番多かったのは、昨年度同様に「授業でのコンピュータなどの活用研修」となっている。今後も情報教育研修会等を充実させて、活用のイメージをもち、積極的に活用する教職員を増やす機会を設けていきたい。デジタル教科書は、一旦コンピュータやサーバーに入れさえすれば、インターネットに不慣れな教員でも簡単に操作できる利点がある。こういった操作性の高いツールの研修も積極的に取り入れ、質の高い研修会としていきたい。

コンピュータが大規模に導入されるようになってきた当初から希望があった「表計算やデータベース等の校務における活用研修」は、今年度も希望が多かったが、「ホームページの作成研修」「デジカメやスキャナ等、周辺機器の活用研修」「絵や音声・ビデオ等のマルチメディア教材やプレゼンテーション作成研修」などについての希望は減少傾向にある。これは、研修が進みスキルが身に付いてきたことや、これらが本当に必要かどうかははっきりしてきたことなどがあるのではないだろうか。また「授業でのコンピュータの活用研修」「情報モラル、セキュリティ等に関する理論研修」などの希望は、昨年度より増えてきている。ICT機器の整備が進み、活用がさかんになってきているからこそその結果であろう。今後もICT機器の効果的な活用などと共に研修を深めていきたい。

### (4) その他

すでにサポートが切れているWindowsXPであるが、いまだに使用、ネットワークにも接続している学校がある。小中学校ともに昨年度に比べ大幅に減ってきてはいるとはいえ、入れ替え予定のない学校が小中合わせてまだ47校ある。予算の関係等、各校事情があると思われるがセキュリティのを中心の問題を抱えていることは間違いない。本調査結果を踏まえ、管理職や各自治体への積極的なはたらきかけなど、早急な対応が望まれる。